

◎地方通信

京濱方面

○東京府土木出張所長會議

東京府に於ては一月二十日土木出張所長、道路改修事務所長、運河下水調査事務所長等の會議を開きたるが、指示事項中道路に關する事項中主なるものを左に掲ぐ。

一 實用幅員二間未満の道路に對しては、電柱は勿論其の他地上工作物の建設を一切許可又は承認せざる方針なるにより、將來此の方針により處理すること

二 環狀及放射道路の改修は大正二十三年度迄延長せしも接續町村の急激なる發展に鑑み大正二十年度迄に完成せしむることゝなりたるを以て本事業の促進に努力すること

三 土地區劃整理施行者に對しては十五年度より府費を以て補助することゝなれるが、地區内の國道府縣道の改築を同時に行ふときは特に補助率を高め得るの途を開きたるを以て之が改良に付努力すること

尙餘問題事項としては

一 道路埋設物に關し道路掘鑿後復舊に關する最善の方法に付ては、格別の妙案もなく占用許可の際命じたる條件を一層嚴守せしむることゝす。尙東電、瓦斯兩會社選信省に於て爲す復舊工事は餘程完全となりしも、搦固め不十分なるもの多きを以て監督を嚴重にすること。

二 路傍樹被購入砂利に關し通行上最も支障少からしむる方法に付ては、購入砂利は可成至急に使用すること、舊道路敷中必要の箇所を砂利置場に充つることゝし、拂下、交換等の際注意すること。

三 交通調査を定期に施行の件は春秋二期に行ふこと(YT生報)

○自動車専用道路の私設計畫

政府の自動車専用道路補助案が葬り去られた其の後日尙淺い今日茲に自動車専用道路の私設計畫され、江ノ島鎌倉遊覽自動車土地株式會社發起人より之が施設許可申請書が神奈川縣當局に提出された事は刮目に値する問題であると言はざるを得ない。

抑々江ノ島鎌倉と云へば古來名所舊跡として人口に膾炙され風光頗る明媚にして四時遊覽客絶へず。特に近年に至つては其の數、年百萬人を突破するの狀況なるも交通機關としては僅に東京電燈株式會社の經營に係る藤澤鎌倉線あるのみ、多數遊覽者は途中混雜の爲めに折角の行樂も忽ち不快となり、苦しみと變じ再び此の地方に遊ぶを嫌忌する事となる、斯くては地方今後の發展上憂慮すべき問題であるとし、此れを緩和せんが爲め同地方の有力者は資本金七拾萬圓を以て江ノ島鎌倉遊覽自動車土地株式會社を組織

し、内三十五萬圓を以て自動車運輸營業費に充て東海道横須賀兩線との連絡上大船驛より片瀬に至る延長約四哩の間幅員三間乃至三間半の道路を新設し、内幅員三尺を歩道としコンクリートを以て舗装する自動車専用道路を造り、軌道貨客の混雜を緩和し遊覽者の便を計り、同時に沿道深澤村に約十萬坪の土地をトシ田園住宅地を經營し増々此の地方の開拓發展を期せんとし左の希望條項を添付して縣當局に詮議方を申請した。

一 道路工事竣成の日より向ふ八ヶ年間會社の専用とし一般車馬の通行を禁止せられ度事

一 幅員三尺の歩道を設け一般の通行を爲さしむる事

一 道路工事竣成開通八ヶ年後は道路を現形の儘無償にて縣に引渡すべき事

一 乗車賃金等は工事竣成の上更めて許可を申請する事

本願は地方民多數の希望する所であり且つ縣としても地方開發の關係上相當の條件を附し許可するは時勢に適合した措置と認めつゝも前例なきことと如何に之を取扱ふ可きかを内務當局に照會したと云ふことであるが、私費を以て計畫された此の問題に對し曩に計畫された自動車道路の關係上主務省の意志に合致するものであるから相當調査の上必ず許可の方針を縣當局に回答すると思ふ。

近畿方面

○大阪の新道路

大阪のメイン、ストリート梅田難波間二十四間幅の廣路は其の施設遅々として進行しなかつたが、今年中に梅田、大江橋間は完成し、更に來年の四月には本町筋まで完了する豫定であるといふ之に要する用地費と工事費とが千萬圓、大江橋と淀屋橋とを近代式のものに架替へる爲に百五十萬圓を要する豫定である。廣路の體裁は中央に軌道を敷設し、その兩側は自動車、自轉車等の如き高速度車輛を通行せしめ、外側を街路樹で仕切つて遅速度車道とし更に街道路樹を境として最兩側を人道とする計畫である、更に高速度電車を敷設して堂島川や土佐堀川の下をくゞり廣路の地下數十尺のところを走れば、この街筋だけは文明都市らしくなるであらう、昨年より問題になつてゐた南北線の肥後橋、信濃橋間の十三間道路は三月末に完成し、更に南へ信濃橋より四ツ橋間の擴張に着手し、これが百五十萬圓、西では現在九條の市電花園橋停留場までは既に十六間に擴張されて居る道路が百五十萬圓で川口まで延長擴張され、川口から端建藏橋を経て土佐堀川南岸に沿うて肥後橋南詰から大阪朝日新聞社前まで民家の立退きに着手するのである、之に要する工費五百萬圓これが爲渡邊橋と肥後橋とは何れも四十萬圓づゝを投じて見違へる程立派な橋と爲るのである、又堂島大橋も五十萬圓を投じて見事な吊橋式「イタリアン、ロマネスク」近世橋と變るであらう、又名物の四ツ橋「く上繫、下繫、炭屋、吉野屋」の四橋が五十萬圓で架替へられ、四橋とも様式を異にして、しかも橋梁美に就て調和を保たしめ、上繫橋だけは京大の武

田五一博士に依頼して設計中である、この外關東大震災の經驗から不燃性橋梁に架替へるものが十八橋の多きに及び之に要する工費八十萬圓、水の都は常に水の御蔭を蒙つては居るが亦一面橋梁で苦勞する、橋梁の架設若は維持に要する費用は一年にザツと四百五十萬圓に達して居る、陸では小路を無数にお化粧する費用は格別なもので、大路だけでもザツと二千五百萬圓を要する、これが目星といふところ水陸両面の「美しい都市へのお化粧料」だけが年に三千萬圓は餘り安くない。新らしく市になつた一望千里の元の郡部には道路らしき道路はない、そこで交通の便を開くには區劃整理をやつて道路を開設するにある、東では東成區生野が二十二萬坪城東方面七十萬坪、南では住吉區の天王寺が七十萬坪、平野が百五十萬坪、北では西淀川區の千舟が四十六萬坪、全部で約三百五十萬坪の區劃整理が行はれることゝ爲つて居る。

住友男爵が公園として、茶臼山の大邸宅を市に寄附したのが愈今年中に邸宅を引拂ふことゝ爲り、南側の道路に面する長い板塀も取除けつゝある、全部の引拂を俟つて公園道路に供用される、現在の運動場からも、市民博物館からも自由に通行の出来るやうになり、茶臼山河底池の邊には百萬圓の大美術館を建設する準備が進められ、運動場の北隅には、東宮殿下大阪市行啓滿一週年記念日の五月十九日までに立派な行啓記念碑が建つのであつて、斯くして大阪市の道路は漸次改良されて行くことに想倒すれば吾人の意を強くするのである。

○よく掘返される大阪市内の道路

大阪府保安課では、市内の道路工事中、逓信省、瓦斯會社、電氣局都市計畫課其他の工事が區々に行はれる爲、或る場所では三、四丁に亘る街道が一齊に掘返され、商店は殆ど營業不能に陥る狀況にして夫がため市民の交通上頗る不便を來すのみならず、時としては生命にも關する危険事故が續出するに鑑み、近々危険防止會なるものを組織して善後策を講ずることとし、其綱要案を作成中であるが、完成の曉は前記の危険と不利益を防止することが出来るであらうと言はれて居る。

東海方面

○愛知縣宮田町道路網計畫

葉栗郡宮田町役場にては各區に亘つて道路網の計畫を樹て町會に提示した處、各區共新設、擴張、改修等種々なる希望を要求するもの頻出し、未だ具體的の計畫を決定すること出来なかつたが、大字宮田南野區に於ては客月三日青年會場に區會を開き協議の結果三線路だけを開鑿することゝ爲り、近々實現すると言ふ。

○岡崎缺方面の道路改修陳情

岡崎市では中町の耕地整理を殆ど終了したので、東方缺町より男川村字洞に達する間の道路を六間幅に改修する事になつたが、容易に是れが實現を見ないので、近來續々家屋を新築するもの増

加し、爲に愈々工事に着手する場合に方りては其の新築家屋所有者に迄相當の移轉料を支拂ふことを要するので、此點を憂慮する同地の有力者は客月七日岡崎市役所に出頭右事情を具陳した、即ち若し此上工事の施行を遅延するとせば却て費用の負擔を膨脹するばかりである、故に此際關係民で一時改修費を立替へても好いから一刻も速かに工事に着手されたいと云ふのであつて、之が爲市當局も大に同情し十五年度より愈工事に着手する模様である。

○岡崎市の國道新設

岡崎市縣道殿橋より北方新國道までの數十間の間は遠からず十二間幅に擴張される筈で市の財政に餘裕出來次第着手されることとなつてゐるが小瀧助役は客月十三日縣當局へ出頭し擴張線を一日も早く定められたしと交渉する處があつた。

○師團廠内の大路に對する陸軍側の要求

名古屋市都市計畫道路網の追加案中廿七號線（清水御門より師團司令部前を通過し衛戍病院に至る）十三間半の一等大路に對し陸軍側の要求なりとて工藤參謀長より

- 一 該路線には電車を通さざること
- 一 該路線は衛戍病院の敷地を狭める懼があるから幅員を十三間半に限定せざること

一 該線路中に三間乃至三間半の軍用道路を設けること
一 三箇條を都市計畫課に申込みしを以て黒川事務官、石川技師上京し主務省と打合せ十三日に歸せるが衛戍病院の敷地にかゝるか

らといつて十三間半を限定せずといふ事のみは内務省の方で同意しない、いづれ閣議で決定するならん。

○岡崎市の八幡當社道拂下

岡崎市の小瀧助役が伊賀八幡社前廢道問題に付上京したが、右廢道は元神社の參道として境内地に成つて居たのを伊賀八幡では縣道の改鑿と共に不用道路として境外地にしたから大藏省では雜種財産にしてしまつた、伊賀八幡では右地所を取上げられては面白くないから拂下げて貰ひたいとの願書を差出した、市としては右地所は神社の物にしては面白くないから市道に爲さんと最近市會を開いて右箇所を市道にしたが右の決議は縣より内務省に行き内務省より大藏省に行き夫れより稅務監督局に至り岡崎稅務署に達するから多數の日時を要する、伊賀八幡では市よりも先に相當代價で拂下げて貰ひたいと書類を出して居る以上棄て置かれず、又岡崎市へ無料交付を許さないから之が處分を急ぐ事となつたが官有財産を希望者に拂下ぐることも出来ないから競争入札の公賣を以て拂下ぐる事となり一月四日付を以て岡崎稅務署の揭示板に今二十日公賣に附する旨の公告を掲示した、是に於て市當局は狼狽し近藤代議士同道上京に及んで嘆願の結果右地所四畝十九步即ち百三十餘坪は半價の一千圓で岡崎市に拂下ぐる旨大藏省に於て承諾したから市は近々市會を開いて購入を議決すると。

○愛知縣西尾町の道路改修

幡豆郡西尾町の幹線幸町に連絡する、旭町道路の六間幅改修は

既に沿道家屋も二三軒を餘すの外は移轉切取りを終了し、一方西部の鶴ヶ崎から上町に通ずる六間道路も工事進捗し双方共三月迄には竣成の見込である、その中間の郡役所、郵便局前通りのみは三間幅の道路なるが故に、同區間も十五年度中に改正し、東西一直線の六間道路が實現して西尾町に於ける道路網の第一期計畫が完了する筈である、更に第二期改修計畫に着手する豫定にして、市街地では大字本町と大字肴町の四間若は六間幅改修及肴町北方へ新道路を貫通し北部と中央部を連絡し、大字中町から蠶糸學校方面の新道路と接続する線も二期線として實施さるゝのである。

東部郊外の耕地整理も近く開始され多年の懸案なる南北へ横須賀縣道と岡崎縣道間へ二線の道路も既に設計を了へたるを以て、十五年中には開鑿さるゝ筈である、此の道路開通の曉に於ては非常に迂廻した兩縣道間の距離を約半分に短縮し、耕地整理と相俟つて、市街東方を發展せしむることゝ爲るのは明かであるが、西尾鐵道線路や悪水路用水路等が介在するが爲、將來市街住宅地たらしむるに支障を及ぼす恐があるので、此點につき理事者は今から適當の手段を考究中である。

北越方面

○柏崎法衙前の道路問題解決

柏崎町東學校町閻魔堂浦から諏訪町一丁目の西裏通りを経て、

柏崎區裁判所前を横斷して、諏訪町二丁目の西裏に通ずる狭い一線の道路がある、同町ではこの小徑を利用し、裏通として開發する計畫を立てて見た、この計畫に依ると裁判所の通路を横斷せねばならぬ、ところが裁判所ではこれまで板塀を設けて通行を遮斷して容易に解放しないので、久しい間の懸案となつてゐたが、愈々柏崎町役場に總會を開き十五年度の事業計畫について協議するところがあつた。

○愛宕町の道路開設請願

長岡市愛宕町方面は近年著しく面目を一新し、百萬圓以上の年産額を有して同市に於ける唯一の産業とも云ふべき織物の工場地帯となり、此の外、全市に亘る五十有餘の工場の原糸を糾合して染色加工しつゝある織物同業組合附屬共同染工場、撚糸工場等十數の工場の設置を見るに至つた、従つて原料加工品精製品の搬出入益繁多を加へ、加之附近には師範學校、女學校其他學園等があつて通學生徒兒童の行通も逐年増加しつゝある現狀なるに係らば、交通機關としては二十年一日の如く幅員五尺乃至九尺の道路があるのみで一つの幹線道路と云ふべきものもない、ために電力及び石炭火力の利用者の多い同地方では、日常交通の困難と危険は勿論のこと、一朝火災等の場合は消防唧筒すら思ふ様に操縦することが出来ないのも同地方民は常に一種の脅威を感じて居た、こゝに於て町民は夙に長町から愛宕神社前通りを貫通する幹線道路延長二百六十七間及齋藤女學校より以北約二百四十間の道路の補修擴張を熱望して居たが、幸ひ昨年西神田町から長町に通ぜしめ

た道路を、愛宕町に向つて延長するやの意圖が市當局にあるとのことで、町民は少からず期待して居た、ところが最近に至り財政上の關係と稱して市當局が該道路の延長計畫を中止せんとする模様なので、非常に憂慮し、長町愛宕町間の延長止むを得ずとすれば、その一半たる愛宕町入口迄百七間は是非十五年度に於て實現して貰はなくてはならぬと云ふので、豊島市長を訪問して十五年度に於て之が改築費の計上其他種々陳情すると共に連署調印したる長文の請願書を提出した。

○一萬坪の道路田畑陥落し海中に小島を現出

石川縣鹿島郡北大呑村庵地内の海岸道路は、一月十日午前三時頃地を起し、長さ約百五十間、幅約百間一萬坪に亘る道路田畑等陥落して全く原形を止めず、交通杜絶したため、石川縣土木課で工夫を派し、應急修理を施した。陥落の箇所は深さ數十尺の洞穴となり、その代りに隣接した海中數尺の所に土塊を噴出して、海中に幅約二十間長さ五十間高さ三間餘の小島が現出した。同所は古來より海上風波高く激浪狂ふ時は地鳴り震動すると言ふ傳説のある所で、地を起りの様子を目撃した村民の談に依ると、轟然たる大音響と共に右の箇所が陥落し、同時に海上に土塊噴出し尙ほ又一大火柱が天に沖して實に壯觀を極めたと言ふ。

東 北 方 面

地 方 通 信

○惡道路と自動車泥濘

日本一の惡路で名高い仙臺市の道路も、近頃は餘程改良されたが、それでも雪解け等の場合に於ける道路は想像を許さない程の惡路である、泥濘を没するの文句も古い、舟でも漕がれば通行出来ぬ場所が尠くない、幅員の狭い道路に於いて自轉車、人力車、荷馬車が交通道德を無視して通る。又例の圓太郎や貨物自動車が常識外の運轉振りで、泥を蹴立つて無遠慮に馳り廻る、通行人は裾から頭まで泥の飛沫を浴びる、兩側の商店の店飾りも同じく泥沫に目も當てられぬ状態である。大町四五丁目邊から新傳馬丁附近や東一番丁邊に至つては實に甚しい、從來は軍隊の馬が泥路を疾驅して市民は非常に迷惑したが、近頃は餘程軍隊に於て注意するので餘り不平も聞かないが、その代りに自動車に對する不平と非難は甚だしい、泥沫を浴びる位は尙恕するとしても一度間違へば通行人の生命にかゝはる問題が生じてくる、而も警察では一向平氣で黙視してゐる有様であるから之に對し適當の方法を講じて貰はればならぬと町民は寄々協議中の趣である。

○ガード道路改修の要請

仙臺市清水小路北目町通鐵道ガード下の道路改修を叫んだ東番町新寺小路有志百五十餘名は、客月十一日午後五時より東七番丁廣瀬湯樓上に會合し、左ノ決議をなし東北聯合道路速成會を設立して、中野忠治氏を會長に東七、東八、東九、新寺小路居住者より三十名の實行委員を擧げ運動に着手することとなり、馬場、相

樂、五十嵐三氏の道路工事に關する演説であつて散會した。

決議

吾人等は東部方面の惡道路の改修殊に市民諸君の交通上大苦痛たる清水小路北目町通洞門の大改造及人道増設の件を市當局並鐵道大臣に請願なし極力これか速成を期す。

○宮城縣々道の改修

宮城縣桃生郡廣淵村より石巻町に通ずる縣道は、近年非常に破壞し就中廣淵村字砂押より須江村に利る約一千間は殆ど縣道としての價値なき迄に破損し宛然泥海の如き狀態に化し事馬の通行不能の狀態に陥り、之が爲め地方産業開發上由々敷き問題として地方有志はその筋に向つて改修速進請願の希望を抱いてゐたが、縣當局に於てもこの破壞せる道路をその儘に放任する事も出來ず近く根本的改修に着手することになつたので、完成の曉には大いに面目を更新するであらうと。

○産業道路の改修

一時白熱化した宮城縣桃生郡十五濱村雄勝時改修問題は、その後經費の關係其他のため其の着手を延引してゐるので、村民は故森知事時代に完成した所謂産業道路の改修後唯一人として歩行するものなく、荒廢するまゝに放任するは遺憾であるから雄勝區民は身命を賭しても之が改修を實現せなければならぬと力味返つて右産業道路を改修してせめて大川村釜谷から自動車だけでもかよはせたいと助役佐藤源治氏外數名の有志は同郡選出の矢本、民利

兩縣會議員の斡旋で上田知事に請願書を提出したが、舊時も産業道路もその儘に放任するなれば桃生東部の産業は根本より破滅するのでこの際費用のかゝらぬ産業道路ばかりでも改修することは雄勝時の根本的改修を促進せしむる道程とならうと。

九州方面

○鐵道と自動車のお客爭奪戰

大分縣東國東郡國東鐵道會社と其沿線營業自動車會社の競争は猛烈であつたが、自動車側が安岐町より國東町に至る約二里の間に於ける鐵道便に依る乘客を一切乗車せしめざる爲、一般乘客は大に迷惑を蒙り、隨つて自動車便に依る乘客が多くなつたので、鐵道會社側は収入を減ずることを、憂慮し今回終點驛より國東町まで更に又富來町に至る間に自動車營業を鐵道會社に於て直營にて爲すこととし、目下自動車を購求すべく阪神地方に注文中である、併しながら昨今寒氣甚だしき爲め自動車便に依る乘客漸く減少し、自動車會社は安岐町終點驛より國東町に至る間の運轉時刻を變更して汽車時間と聯絡することとしたので漸く鐵道に依る乘客増加し鐵道會社側にも漸く愁眉を開くに至つた。今後會社に於て終點驛國東町間の自動車營業を爲せば或は從來自動車に依つて受けた鐵道の損害も不日挽回するに至るであらうと觀測される。

○鹿兒島縣下に於ける木橋の全廢

鹿兒島縣に於ける木橋を全部鐵筋コンクリート橋又は石橋に架換へる工事は着々進行し目下工事中の冷水、宮城、重富の三橋は三月迄に竣工の豫定にて、此外縣會に於て追加可決した災害復舊に依る架換橋梁は綱掛六十米突、吉田二十二米突、高山六十三米突、菱田百二十三米突、古市四十米突の諸橋梁にして架設豫算に對しては目下安達庶務課長が上京して専ら關係各省と折衝中であるので、本省の許可あり次第工事に着手する様になつてゐる。

○下關田中町の道路改修

下關田中町では今回町民協議の結果各自費用を負擔して、同町を通ずる道路の改修をなす事となつたが、同工事は前後二期に分ち第一期は四千五百圓を投じて、高尾溜池より火藥庫に通ずる三百二十餘間の道路、第二期は約六七千圓を投じて火藥庫より新町三丁目に至る三百間の道路を何れも三間半に擴張し、來る三月下旬より愈々工事に着手する筈である。

○悪道に惱む高森津留間南郷自動車

熊本縣河蘇郡南郷自動車會社は同郡高森村野尻村津留間に於て自動車の定期運轉を客年十二月一日から開始したが、其の道路は柏村まで通じてゐる、宮崎縣街道を横ぎりて、草部村を経て津留に行くものであるが、道路開通後十年餘の今日、未だ砂利も撒布されなかつたことなく従つて、降雪や霜解け等の場合に於ては路面の泥濘

甚しく輪轍は一尺餘も埋まる狀況で、如何に高級車や熟練な運轉手を使用しても、傾斜動搖酷く、思ふ様にスピードも出ない爲に、高野驛列車との聯絡も思ふやうに行はれず、交通運輸上遺憾とするので、此際熊本縣土木課に於て何とか應急の方法を講じて貰ひたいものと地方民は切望して居る。

○下關市の砂利道

下關市の道路は降雨に際せば泥海と化し好天續けば黄塵の巷となるので、之が改善には市當局も最も意を用ひてゐる所であるが財政の都合上現代式アスファルト等の道路は到底望み得ないので、現在は砂利の撒布によつて路面を固めてゐる、其砂利は市外豊浦郡玉喜村から採取してゐるが、最近の寒氣の爲一日纔に十四五名の入夫が採取する位で従つて採取量も二坪以外に過ぎない、然るに昨年四月以降百二十坪の砂利が市内養治校、家畜市場、屠牛場、稅務署附近に貯藏されてゐるので之を使用すれば今後一兩月間は差支なく行くが年度末迄には尙一百坪以外の砂利を必要とするので採取能率を増進する爲以後はトロッコに依つて運搬する趣である。

